1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3577200904		
法人名	有限会社 にこにこ苑		
事業所名	グループホームなのはな		
所在地	山口県岩国市玖珂町1020-3		
自己評価作成日	平成 26年 9月 5日	評価結果市町受理日	平成27年4月20日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成26年10月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

内部研修や自己評価を行い、職員ひとりひとりがスキルアップに努めており、利用者へのより良いサービスへとつながっている点
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所では、毎日午後に、利用者とのコミュニケーションを図るための時間を確保され、職員が意識的に利用者に関わられることで、思いや暮らし方の意向についての把握に努めておられ、利用者一人ひとりに合わせたケアに努めておられます。事業所内には終日有線からの心地よいBGMが流れ、利用者は穏やかに安心して暮らされている様子が見受けられます。自治会に加入し、地域の一つの班として管理者は3ヶ月毎に行われる班長会議に出席し提案を行ったり、地区の防災担当の役割を担っておられる他、地域向け事業所便りを毎月、100軒のお宅に回覧するなど、地域の理解が深まるよう努めておられます。職員研修として、外部研修は勤務の一環として参加の機会を提供しておられる他、内部研修を毎月実施されています。資格取得に対する支援も行われ、費用のかさむ資格取得に対しては、法人独自の貸付制度があり、働きながら学べる様に支援に取り組まれています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を周知徹底するために、毎朝申し送り時に理念の唱和をし確認するとともに、サービス提供場面において理念の実践に向けての取り組みを心掛けている	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、毎朝申し送り時に理念を唱和して、共有し、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、どんと焼きなどの地域行事に参加している。事業所は地域の1班として考えられ、緊急連絡網の中にも入り、地域の中の施設と位置付けられている。月に1度なのはな便りを回覧してもらい、苑での行事等への参加も呼び掛けている。地元中学の職場体験なども受け入れており、花火大会などの苑内行事には、ボランティアの中学生が参加してくれている。	自治会に加入し、3ヶ月に1回の班長会議に管理者が出席して、ごみの出し方についてなど提案している。事業所だよりの回覧を月1回依頼している。地域のどんと焼きや祭りの案内を受け利用者と一緒に参加しているが、気候を理由に参加できない旨を伝えると、スイカの差し入れがあるなど、地域の一員として日常的な交流がある。過去に職場体験をした子供たちやその後福祉関係の専門学校に進学した学生が、夏休みにボランティアで来訪し、利用者との交流を続けている。日本舞踊や大正琴の演奏のボランティアの来訪がある。地域の緊急連絡網に加入している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	いつでも相談援助が出来るよう職員一人ひとりの力をつけ職場全体の資質向上に向け、資格習得に励んでいる。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価の意義を理解しており、自己評価は職員全体で取り組んでいる。指摘改善を受けた箇所については、職員に申し送り、改善に向けての努力をしている。	運営者、管理者、職員共に評価の意義を理解しており、今回の自己評価はミーティングで職員全員で話し合い、取りまとめている。課題となるところは職員全体で理解し、具体的な改善に取り組むように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者、家族、地域の方々と意見交換し意見については検討するようにしている。	自治会長や民生委員、第三者委員、学識経験者、家族、利用者、地域包括支援センター職員等で、2か月に一回実施している。事業所の状況を報告した後、意見交換をしている。利用者の後見人と家族の間における話し合いの方法について質問があり、後見人と連絡調整をしてその結果を会議で報告することで、会議のメンバーに後見人制度について理解を深める事ができるなど、サービス向上に活かすことにつながっている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	書類関係、困難事例に関してなど、市町担当者に相談している。地域包括センターの担当者とも、サービス向上、対応についてその都度相談している。	課題やわからない事、事業所の実情などは、その都度具体的に市町担当者に報告相談し、助言を得ているなど、協力関係を築くように取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議時に、情報交換している。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	原則として拘束は行わないようにしているが、緊急やむを得ない場合においては、本人、家族の許可を頂き、最小限(マットコイル、2本柵)の拘束を行っている。拘束については、毎月の会議で検討し、必要ない場合にはすぐに改善に向けて対処している。玄関の施錠は、防犯面から夜間のみ行っている。	研修で学び、すべての職員は正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。緊急やむを得ない場合は、適切な対応が出来るよう取り決めている。言葉や薬による拘束、玄関の施錠も行っていない。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関しては、身体的にも精神的にも見過ごされることがないように細心の注意を払っている。特に言葉の暴力も虐待になることを、設内部研修において学習し、周知徹底に努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用されている利用者もおられるので、特に研修等は行っていないが、各自、成年後見人制度について学習するよう声を掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時はパンフレット、契約書、重要事項説明書などを利用して十分説明し、理解を得られるよう努めている。変更がある場合は必ず事前に「なのはな便り」でお知らせし、来苑時に詳しく説明している。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	原則として、毎月の利用料の支払いは振込せず、来苑して頂くこととしているので、来苑時には必ず職員が家族と話す機会を持っている。相談、苦情は随時受け付けている。	相談や苦情の受付体制や処理の手続きを定め、契約時に利用者や家族に説明している。家族が来訪したときには、職員との面談で意見や苦情を聞いている。意見箱を設置している。苦情や意見は運営推進会議や職員会議で話し合っている。家族から、共用空間における利用者の席位置について意見があり、職員で話し合い、席替えの工夫案を出して支援するなど、反映させている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議の他、いつでも職員からの意見や提案を受ける体制を整えており、十分検討した結果で、運営に反映させている。	毎月の職員会議やユニット会議で職員の意見や提案を聞く機会を設けている他、日々の業務の中で聞いている。食事時の座席や食事介助についての提案など、サービスに反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員に対する自己評価を作成、実施し、向上心を持って働けるよう努めている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修案内があれば、随時参加を薦めており、研修参加は勤務としてみなされている。内部研修は毎月1回各棟のリーダーが主体となり行っていたが、リーダー以外の職員にも自分が日頃気になっている事などをテーマとして挙げてもらい、内部研修を担当するようにしてもらい、スキルアップに努めている。	外部研修は職員に情報を伝え、希望や段階に応じて勤務の一環として参加の機会を提供し、受講後は、復命研修をして、全職員で共有している。内部研修は毎月1回、職員会議時に、職員が交代で講師となり、それぞれのテーマを決めて実施している。資格取得の支援も行っており、法人内には資格取得に係る費用の貸付制度がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム全国大会や岩国市地域密着型連絡協議会等への参加で交流を図るよう努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	仮入居申し込み時、本人の意見や、思い、不安、要望を聞く機会を持ち、安心して生活して頂けるように努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	仮入居申し込み時、本人の意見や、思い、不安、要望を聞く機会を持ち、安心して生活して頂けるように努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	「その時」必要な支援を見極め、他のサービス利用も含めて可能な限り、柔軟な対応をするよう努めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に喜び、一緒に楽しみ、一緒に悲しみ、思いを分かち合える関係づくりに努めている。支援する側、される側という意識を持たず、共存しながら生活できるよう和やかな雰囲気づくりを心掛けている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とは密に情報交換し、利用者の状況を伝えている。状況を知っていただくことで、共に支え合う関係を築いている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔からの友人や知人が見舞いに来られた場合は、本人、家族の拒否がない場合、随時面会を受け付けている。面会に来られた際には居室でゆっくり過ごしていただけるように配慮している。	友人や知人、家族等の来訪がある他、家族の協力を得て外出したり、受診に合わせてドライブしながら自宅を見に行ったり、実家近くまで行くなどの支援をしている。姉妹の勤務地である小学校跡地の桜の木を見に出かける支援もしている。月1回の外出レク時に華族の参加を得て、利用者と一緒に過ごせる時間をつくなど、関係継続の支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性や性格を見極め、必要な場合は職員が間に入り、より良い関わりができるよう努めている。時には悩み事を相談しあったり、困っている時にはそっと手を差し伸べられたりと、お互いに支えあえる人間関係を作れるような支援に努めている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された場合にはお見舞いに行っている。また、家族から相談があれば随時受け付けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中でコミュニケーションを密にとり、意向や希望の把握に努めている。表情や態度からも思いをくみ取れるように努め、家族からも情報を得るようにしている。月に1度ユニット会議で各利用者がよりよく暮らせるよう検討している。	契約時に家族から聞き取った利用者の生活歴や暮らし方の意向の記録や、日々の関わりの中で、利用者とのコミュニケーションを図り、さりげない利用者の一言を尊重して思いや意向の把握に努めている。困難な場合は家族の意向や生活歴、日頃の暮らし方を基に本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活や環境について、利用者や家族に話を聞いたり、日々の交流の中で訊きえた情報を生かし、本人の全体像を知ること、自分らしく暮らして頂けるよう支援している。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりの中で、利用者ひとりひとりの生活リズムや心身状態を把握するように努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族の意見や要望を聞きながら介護計画に反映している。職員全体が課題を共有し、解決できるようユニット会議を行っている。利用者に変化があった時には、その都度、個別のカンファレンスを行っている。	本人の現状に即した介護計画を、かかりつけ医や家族の意見を取り入れながら作成している。利用者の担当職員と計画作成担当者が中心となって、サービス担当者会議を開いて検討している。モニタリングは3ヶ月に1回実施し、見直しは6か月から1年の間で実施している他、利用者の状態の変化に応じて、その都度見直しを実施し、現状にあった介護計画を作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の心身状況、変化、言動等記録し、情報の共有に努めている。ケース記録はもちろんだが、介護日誌、チェック表、申し送りノートなど様々な記録を活用し、職員間での情報共有、確認を行っている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の家族の状況に応じて、受診時、付き添いや送迎時等、柔軟に対応している。音楽療法や訪問美容サービス(散髪)を利用している。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方、ボランティア、民生委員などの見学を受け入れている。ボランティアは日本舞踏、マジック、大正琴など様々な方が来てくださり、利用者も楽しみにしておられる。中学生の職場体験も受け入れている。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当事業所の協力医の他に、本人や家族の希望医院等も受診できるよう、柔軟な対応をしている。訪問看護や往診も利用している。協力医療機関、医師と連携を取りながら適切な医療を受けることができるよう、支援しており、夜間、休日、急変時もすぐに対応してもらえる	本人や家族が希望するかかりつけ医となっている。訪問診療や往診、受診支援など、利用者に応じて、適切に受診できるよう支援している。協力医療機関との連携もあり、夜間、休日、緊急時への対応など、適切な医療が受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	糖尿病の利用者に関しては、准看護師が勤務時に自己血糖値を計測している。また、准看護師出勤時には利用者の気づき等を相談し、必要時には医療に繋げるなど支援している。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者入院時には見舞いに行くなどして、医療機関や家族と連絡を取り、情報交換している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向を配慮しつつ、事業所で対応できること、できないことを状況に応じて話し合い方向性を決めている。重度化、終末期ケアの経験を生かしながら、家族と密に連絡を取り、主治医とも相談しながら、看取りも行っている。	重症化や終末期に向け事業所で出来る事を家族に説明している。緊急時の対応についての家族の意向を把握している。実際に重度化した場合には、本人や家族の希望や気持ちを尊重しながら話し合い、かかりつけ医の支援や助言、訪問看護の導入など、方針を共有して支援に取り組んでいる。看取りを行っている。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	インシデント報告書、事故報告書に記録し、原因や対策を検討し、ひとりひとりに応じた事故防止に取り組んでいる。	インシデント報告書、事故報告書を作成し再発防止に活かしているが、記載内容が十分とはいえない。誤嚥の対応など随時に研修を行い、急変時にも対応できるようにしているが、全ての職員が実践力を身につけているとは言えない。事業所にAEDを備え、地域への周知を行っている。	<ul style="list-style-type: none"> 記録様式の検討 全職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的な訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消火訓練や避難訓練を行っている。自治会に加入し、管理者が地区の防災担当になっており、非常時の協力体制を築いている。	年2回のうち1回は夜間想定で、利用者も参加して、火災避難訓練を実施している。平成26年4月に防災担当者を事業所ごとに男女1名ずつ決めて地図上訓練に参加している。運営推進会議でさい害対策についての協力依頼について話し合っているが、実際に地域住民の避難訓練への参加はない。管理者は自治会の一員として地域の防災に関わり、事業所として、地域の緊急連絡網に加入している。地域との協力体制を築くまでには至っていない。	<ul style="list-style-type: none"> 地域との協力体制の構築
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報の取り扱いには秘密保持に関しては十分配慮している。職員会議でも言葉かけについて何度も研修し、ひとりひとりの人格を尊重するよう努めている。	言葉かけについて研修を実施し、職員は理解して、人格やプライバシーに配慮した対応をしている。日々の業務のなかでの気になる言動は管理者やリーダーが指導し、職員会議でも確認している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のコミュニケーションをとりながら思いや希望を把握できるようにしている。意思表示のない方は選択肢を用意し、選んでいただくなどして、本人に決定していただくようにしている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、その中でひとりひとりが自分のペースで過ごせるよう支援している。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時に着替えは利用者を選んでいただく、または一緒に選ぶようにしている。訪問美容時、本人の希望する髪型にしている。日々の整容についても配慮している。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望も聞きながら、旬の食材を取り入れた献立を立てている。簡単な野菜の下ごしらえなどを利用者を手伝ってもらったり、味見をして頂いたりして、調理の過程も楽しんでいただけるようにしている。食事時は職員も同じものを頂き、利用者と同じテーブルを囲んでいる。	法人の管理栄養士の献立を利用し、三食ともユニットの台所でそれぞれ調理している。利用者は、もやしやひげ根取りや玉ねぎの皮むきといった下ごしらえの他、食後に食器を重ねて下げたり、お盆拭きをするなど、できることを職員と一緒にしている。利用者と職員は同じものを一緒に食べている。おやつにはホットプレートを使ってホットケーキを職員と一緒に焼いたり、柏餅をつくったりしている。月1回の誕生会には、利用者の希望を聞いて赤飯や寿司などの行事食にしたり、花見には弁当持参で外で出かけて食べたり、外食など、食事を楽しむことが出来るように支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の希望も考慮し、管理栄養士により献立が作成されている。食事や水分摂取量はチェック表に記入している。利用者個々の状態に合わせてトロミを付けたり、ミキサー食、刻み食等で工夫し、しっかりと食べていただけるよう配慮している。水分がすすまない方には、好みの飲み物を準備したり、お茶をゼリーにするなどして工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性については職員全員が理解し、利用者の状態に応じて、見守り、介助しながら毎食後必ず、口腔ケアを行っている。就寝時には義歯は洗浄液につけ、歯ブラシ、コップは週に一度は消毒し、清潔保持に努めている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用するなどして、利用者個々の排泄パターンを把握し、適切なトイレ誘導を行ったり、声かけをしている。パット類は最小限のものを使用している。トイレ介助では、ズボンの上げ下げなどできることはやって頂き、残存機能を生かし、自立支援を図るようにしている。	記録を活用して、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、さりげない声かけや誘導で、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給を十分心掛けており、食事も繊維質のものを多くとって頂けるよう献立してある。フルーツは寒天寄せにするなどの工夫もしている。適度な運動も重要なので、毎日簡単な体操を取り入れている。下剤や緩下剤の服用も医師と相談の上、必要に応じていただいている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	本人の意思を確認し、無理強いはずせずタイミングや声掛けを工夫している。シフトの関係上、入浴時間帯は決まっているので希望通りとはいかないが、入浴を楽しんでいただけるよう心掛けている。	入浴は毎日13時から15時頃まで行っており、4～5人の利用者が30分程度をかけ個別に入浴している。利用者は全員、入浴を楽しんでいる。必要に応じ、清拭や陰部洗浄、足浴などにも対応している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後、入浴後、その他利用者の日々の心身状態を見ながら、休憩、昼寝の声かけを行っている。居室の温度、寝具を清潔に保つなど、気持ちよく眠れるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬説明書を個別ファイルするとともに、台所に服薬一覧表を掲示し、職員はひとりひとりがどんな薬を服薬しているかを把握している。症状に変化が出た場合は医師に連絡し、相談している。 服薬時は日付、名前、○食後を声にだし確認し、飲み込みまで見守りしている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々のレクリエーション活動では、各自、歌やゲームなどを楽しんでいただいている。日々の生活では簡単な家事を手伝っていただいている。継続して家事を手伝っていただくことで自分の役割を認識しておられる利用者もおられ、生活に生きがいを感じていただけるよう支援している。	歌や体操、レク等全員で一緒に行うものは午前中に行い、午後は自分がしたい事が出来るように支援している。本を読んだり、般若心経を唱えたり、テレビで相撲を見たり思い思いに過ごしている。洗濯物たたみやお盆拭きなどの家事にやりがいを持っている利用者もあり、一人ひとりに合わせた支援をしている。午後は利用者とのコミュニケーションを図り、利用者話し合ったり、外部指導者による音楽療法や外出レク、運動会など、活躍できる場面づくりや楽しみごとの支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣のスーパーマーケットへの買い物や散歩、ドライブは希望に応じてお誘いし、気分転換を図っている。 月に一度は四季折々の景色を楽しんでいただけよう外出レクを企画し、お花見、外食、ピクニックなどを行っている。	日常的に花壇のある外庭に出て気分転換をしたり、洗濯物を干したり入れたりしており、近くのスーパーマーケットでの買い物や散歩、ドライブなどの支援をしている。毎月一回は家族の協力を得ながら、外出レクとして近郊の行楽地や季節の花見に出かけているなど、戸外に出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金に関しては苑で預かっているが、小銭を自分で管理しておられる利用者もおられる。おやつなどを希望され、買い物に行かれる時は職員が付き添っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話を設置しており、好きな時に電話して頂けるようにしている。手紙を自分から書かれる方は現在おられないが、年賀状は家族等にあてて毎年書いていただくようにしている。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	いつも清潔に保たれるように、掃除している。リビングや廊下には季節に応じた壁面飾りや、写真などを掲示している。BGMとして有線放送を活用し、リクエストに応じて曲をかけるなどし、居心地の良い空間になるよう工夫している。	リビングや食堂は採光に優れ、温度や湿度にも配慮している。静かに流れる有線放送のBGMは心地よく、利用者のリクエストにも応じている。共用空間には季節の花が飾ってあり、干し柿が吊してあるなど季節感をとり入れている他、話題提供にもなっている。使い慣れた厨房は生活感を感じることができ、家庭的である。大きなガラス窓からは外の様子を眺めることができ、利用者が居心地良く過ごせるように支援している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの一角にあるソファに肩を並べて座ったり、会話を楽しまれたり、テレビを鑑賞されたりする中で、親近感を持っていただけるように思う。 グループが苦手な方は小テーブルを利用していただくなど配慮している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に畳をひかれ、布団で就寝されるなど本人の生活習慣に合わせた居室づくりをしている。お花や鉢植、手芸品、ご家族との写真を飾ったり、テレビや家電を置かれたりと、居室内はひとりひとり自由にしていただいている。仏壇や神棚を置かれている方もおられ、朝晩手を合わせたり、お経を唱えることで気持ちが安定し、心穏やかに過ごしていただいている。	ベットや整理ダンスを整備しており、布団やカーテン等リースしているが、思い思いの室内装飾や小物、衣服を持ち込んで、衣服を洋服掛けに掛けたり、家族の写真や作品を飾ったり、仏壇や神棚を祭ったり、ライフスタイルに合わせ、畳を敷き、和室とするなど、その人らしく過ごせるよう支援している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室がわかるように表示している。廊下やトイレに手すりを設置し、安全に生活して頂けるよう配慮し、障害物となるようなものを通路や動線に置かない様に徹底している。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホームなのはな

作成日: 平成 27 年 4 月 14 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	36	年2回のうち1回は夜間想定で利用者も参加し、火災避難訓練を行っているも、地域の方には参加してもらえていない。	年に1回は地域の方に避難訓練に参加してもらえるようにする。	今まで通りのお便りに加え、運営推進会議や催し物と一緒に行う事で参加してもらえるようにする。	12ヶ月
2	35	インシデント、事故報告書は作成しているも、再発防止につながっていない点があり、職員の実践力が乏しい部分がある。	事故防止について職員の実践力を上げる。	随時インシデントの検証を行い、定期的に事故を想定した研修を行う。	6ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。